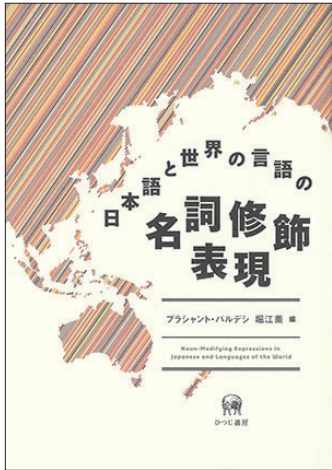


日本語と世界の言語の名詞修飾表現

プラシャント・パルデシ、堀江薫編 A5判・584ページ 定価 8,800円＋税

名詞(連体)修飾表現は世界の諸言語の研究において最も研究されてきた言語現象の一つである。本論文集は東から北東・中央・西・東南・南までを含むアジア諸言語、ヨーロッパ言語の名詞修飾表現に関する26本の論文を収録している。対照言語学・類型論的観点から「内の関係」(所謂「関係節」)のみならず、通言語的研究の少ない「外の関係」の名詞修飾表現に関しても分析を広げており、名詞修飾表現に関心を持つ読者にとって必読の文献である。

執筆者: 益岡隆志、大島資生、大関浩美、木戸康人、金廷珉、白井聡子、宮岸哲也、呉人恵、江畑冬生、新田志穂、大崎紀子、北野浩章、上田広美、堀江薫、ハイ・タリー、高橋清子、大塚行誠、倉部慶太、桐生和幸、松瀬育子、西岡美樹、プラシャント・パルデシ、柴谷方良、岸本秀樹、Dileep Chandralal、萬宮健策、児玉望、吉岡乾、クロヤン・ルイザ



言語の能格性

今西祐介著 A5判・200ページ 定価 3,800円＋税

能格性に関する日本語での初の概説書。能格言語の特異性を示すと同時に、英語や日本語と能格言語の類似性にも注目することで、言語の普遍性研究の重要性を説く。頻繁に議論される能格言語(バスク語やヒンディー語等)と筆者の専門であるマヤ諸語に焦点を当てながら能格性とそれに関連する言語現象を網羅的に紹介する。さらに、生成文法理論における能格性研究を概説しながら、当該理論の成果・問題点・今後の展望を明らかにする。

目次

第1部 事象概説	第2部 理論的分析
第1章 格体系概要と能格性	第5章 構造格分析
第2章 分裂能格性 (Part 1)	第6章 内在格分析
第3章 分裂能格性 (Part 2) マヤ諸語を中心に	第7章 依存格分析
第4章 統語的能格性 マヤ諸語を中心に	第8章 分裂能格性のパラメータ分析 マヤ諸語の名詞化と能格性



A Descriptive Study of the Modern Wolaytta Language

若狭基道著 A5判・852ページ 定価 45,000円＋税

エチオピアの南西部で話されているウォライタ語(アフロアジア大語族、オモ系)の総合的で詳細な記述的研究。有声喉頭化音の存在の指摘、表記の実態の分析、「具体性」という概念を用いた普通名詞の形の使い分けの解明、固有名詞の多面的な記述、ヴォイスの複合現象の検討等、オリジナルな視点を含みつつもレファランスマスターとして望ましい姿を模索。世界的に密かな注目を集めていた博士論文、待望の出版。

目次

Chapter 0 Introductory Notes	Chapter 4 Word Classes
Chapter 1 The Wolaytta Language: Some Background	Chapter 5 Stem Formation
Chapter 2 Phonology	Chapter 6 Syntax
Chapter 3 Grammatology	Chapter 7 Sociolinguistics

